

令和7年度 比叡山中学校 学校評価

令和7年度 重点目標

- 1) 学園の理念を学校生活で実現するため、「掃除・挨拶」を徹底し、「朝礼」の充実を図り校訓の具現につとめる。校訓と学校実践目標の励行によって、「知識・技能を身につけ、行動力をもって社会貢献でき、これからの時代を生き抜く力を持つ生徒」を育て、「えいざんスピリット」の獲得をはかる。
- 2) 「聴き合い、伝え合い、学び合い」をテーマに、日々の授業において主体を生徒とした「学び合い」を推進し、主体的に学ぼうとする力を育てる。
- 3) 日々のホームルーム活動・部活動、また体験学習等の学校行事については、SDG'sやESDを柱にマネジメントし、「えいざんスピリット」の獲得をはかる。
- 4) 充実した学校生活をすごせるように、基本的な学校生活の習慣を身につけ、学習と部活動のバランスをはかり、心身とも健康な状態を保つことをめざす。
- 5) 読書の大切さを説き、学校図書教育を充実させる。読書週間と図書室の接点をはかり、探究学習や興味関心に応じて、自ら書物に親しみ、深く学べる要素を養う。
- 6) 全生徒を全教職員でサポートするという共通認識のもと、人権意識の向上や個性を認める支援の充実をはかり、いじめ・体罰を許さず、人と人との絆を大切にす集団づくりをめざす。
- 7) 生徒に寄り添い、懇談会の充実や説明会の対話を通じて、保護者との連携を深めて信頼関係を築く。
- 8) 授業研究や研修を通じて、個々の教員及び教員集団としての資質・能力・指導力の向上をはかる。主体的・対話的・深い学びの実現をめざし、ICT教育の研究と推進、グローバル教育の充実をはかる。
- 9) 中高同一敷地となった新しい学習環境を生かし、教職員の一体化をめざした体制整備を進める。
- 10) 「チャレンジ観中」をスローガンに、校内の新たな取り組みと脈々と受け継がれる伝統との融合をはかり、本校の魅力を広く伝え、積極的な広報活動につとめ、入学定員の確保につなげる。

領域	評価項目	中間評価	年度末評価	
		自己評価	保護者評価	自己評価
1 学校経営	・学校の教育方針や教育目標、教育活動について理解が得られるよう分かりやすく説明している。	A		
	・学校の教育方針や教育目標が実現できるよう具体的な取り組みを進めている。	A		
2 学習指導	・「学び合い」を推進する中で、授業を工夫し、学習習慣を身につけさせ、生徒が主体的に学習する力を育てている。	A		
	・時間を大切に、家庭学習の習慣が身につくようにサポートしている。	A		
3 生徒指導	・実践目標である、掃除・挨拶を大切に、基本的な生活習慣が身につくように努めている。	A		
	・「聴き合い・伝え合い・学び合い」ながら、規則や規律を守り、社会の一員として意識を高める取り組みができています。	A		
4 進路指導	・6年間を見通した個々の能力・資質・能力を伸ばす適切な進路サポートが行われている。	B		
	・一環した「キャリア教育」をする中で、将来の目標達成に向けて、進路に関する情報や資料の収集、およびそれらの提供が適切に行われている。	B		
5 特別活動	・部活動が顧問の指導の下に、生徒が主体性を持って取り組み、活発で有意義な活動となっている。	A		
	・「学び合い」の一環の中で、縦割りや学年やクラスの枠を外し、体育大会・文化祭などの学校行事を通じ、互いに高め合い、認め合う活動が行われている。	A		
6 学校図書室	・生徒に必要な本や情報を提供し、中高共有の広い図書室の利用を促進するように努めている。	A		
	・授業やHRなどを通じて、図書に対して興味やわき、読書習慣が身につくようにサポートしている。	A		
7 保健・安全指導	・日常の健康観察に努めるとともに、生徒の病気やけがに対し適切な対応ができています。	A		
	・保健室だよりなどの情報提供により、健康・安全に対する意識の向上に努めている。	A		
8 人権教育	・「聴き合い・伝え合い・学び合う」中で、個々の生徒がお互いの人権を尊重し合え、「いじめ」のない集団づくりに努めている。	A		
	・校内人権デーなどの人権学習を通して、人権意識向上に努め、生徒の個性を大切にして支援を適切に行っている。	A		
9 環境教育	・ESD(持続可能な開発のための教育)を柱に、環境問題など現代社会の諸問題を自分のこととして捉えられるように取り組んでいる。	A		
	・「シンクグローバリー、アクトローカリー」のもと、身近な環境問題から、生徒一人一人が行動できるように取り組んでいる。	B		
10 事務・管理	・教育活動に必要な備品、消耗品など管理・整備がなされている。	A		
	・個人情報の管理を含め、適切な文書管理が行われている。	A		
11 その他 学校の取り組み	・朝礼及び朝礼訓話を通じて、日々の活動の中で、生徒の成長を促す取り組みが行われている。	A		
	・クラス担任や学年主任が中心になって、保護者との連携がとれている。	A		
	・体罰・いじめの防止および早期発見に努め、迅速な対応が適切な対応が行われている。	A		
	・教育相談体制が整備され、個々の事例に対して協働して支援する体制づくりに努めている。	A		
	・ホームページ等を活用し、教育活動・学校案内についての情報発信に努めている。	A		
	・ICT機器を用いるなどして、生徒の主体的、協働的な学習や活動が深まるように努めている。	A		
	・「国際教育」やESDを通じて、諸外国の文化や価値観を理解し、国際社会の一員であることを意識できている。	A		

7月 学校目標に基づいた評価項目の公表
 評価表の見方 10月 中間評価の公表(9月までの教育活動に対する中間評価)A・B・C・Dの4段階で示す。
 3月 総合評価の公表(年間の教育活動に対する評価)A・B・C・Dの4段階で示す。

- ・A・B・C・Dの基準は、肯定的な評価が75%以上を「A」、50%以上75%未満を「B」、25%以上50%未満を「C」、25%未満を「D」とする。
- ・自己評価は教職員による評価。学校関係者評価は学校関係者(理事、評議員・近隣小学校・地域などの代表)による。保護者アンケートなどによる評価。